

## 早稲田大学 文化構想学部 世界史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	2011年以降すっかり定着した感のある古代から順次時代を降って現代にいたる大問配列は今年も踏襲された(2007年～2010年は「人の移動」(2007)・「都市」(2008)・「戦争」(2009)・「思想・宗教」(2010)と全体を通じたテーマ設定がされていた)。図版を用いた絵画史といった出題にも変化はなかった。第一・第二文学部の再編直後は易しい出題が目立ったものの次第に難化傾向にあり、2021はやや易化し2022年は再び難化し、今年はやや易化した。2022年の大問8問構成に対して今年5問と減少。小問の総数は2022年の42問(正解2つの問4問を加えると46問)に対し、今年33問(正解2つの問3問を加えると36問)と大幅に減少した。2022年に文化構想学部としては初めて登場した2つ答を選ぶ設問は今年も継承された。論述問題は今年も出題されなかった。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	世界の古代遺跡	2020年「人類の進化」・2019年「西アジアの古代文明と文化」・2018年「世界遺産に指定された遺跡」・2017年「古代社会における神と権力」と続き2021年はアッシリアとアケメネス朝。2022年は世界各地の古代文明。今年とは昨年と似たテーマ設定で世界遺産とは銘打ってはいないものの事実上は「世界遺産」遺跡関連の出題となっている。設問1：正解は「ピサロ」。インカ帝国を滅ぼしたコンキスタドレスとして基本事項である。設問2：正解はア・ウ。ア-人類のポリネシアへの拡大は新石器時代以降。ウ-「石臼」は食糧生産革命後に成立した新石器文化の産物。設問3：正解はア・ウ。ア-マニ教はササン朝(224～651)時代の3世紀前半に成立。ウ-アケメネス朝版図の東端はインダス川。設問4：正解はイ・エ。イ-アンコール=ワット造営は12世紀のスールヤヴァルマン2世で南宋に朝貢。エ-アンコール=ワットははじめヒンドゥー教寺院として建てられ、のちに仏教寺院となっている。設問5：シハヌーク。カンボジアの元国王で1970年のクーデタ当時は国家元首。写真の遺跡の地球儀上の位置特定は煩瑣だがマチュピチュが南半球であることは自明なのであとはスペイン・イラン・カンボジアと考える。位置関係を抜きにしても「1970年代にクーデタ」でも容易に解答できる。	標準
〔Ⅱ〕	ヨーロッパ史上の政治指導者	設問1：正解ハエ。ペテロの殉教はネロ帝のキリスト教迫害(64年)。ネルウァ帝は五賢帝最初の皇帝。設問2：正解はイ。第3回十字軍に参加した英王はリチャード1世。設問3：正解は「エグバート」。七王国(ヘプターキー)の一つウェセックスの王。七王国統一の年代(829年)も重要。設問4：正解はエ。アは「元老院を廃止」が誤り。元老院はローマ市と一体だったため宮廷がローマを離れるとその機能は形骸化した。西ローマ帝国が滅亡したあとも存続した。イの「ローマ帝国の領土は最大」はトラヤヌス帝の事績として重要。ウ-「軍人皇帝時代(235～284)の始まりはマクシミアヌス=トラックス帝(位235～238)。実質的にはマルクス=アウレリウス帝のあとを継いだコンモドゥス帝が剣闘士に殺されたあと即位したセプティミウス=セウェルス帝(位193～211)に始まる。設問5：正解はウ。アは「西ゴート王国を滅ぼした」が誤り。ユスティニアヌスが滅ぼしたのは東ゴート王国。イ-ヘラクレイオス1世がシリアとエジプトを奪回したのは「パルティア」ではなく「ササン朝」から。エ-バシレイオス2世が滅ぼしたのは「第2次」ではなく「第1次」のブルガリア帝国。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅱ〕		設問6：正解はア。団結禁止法の制定は1799年と1800年。問題文でピット内閣の年代が明記されているのでわかりやすい。設問7：正解は「国民保険法」。設問8：正解はエ。ア-ミュンヘン会談に参加した英首相はネヴィル=チェンバレン。イは単純な誤り。ウの「大西洋憲章」(1941年8月)は日米開戦(1941.12)より前。設問9：正解はウ。ア-鉄のカーテン演説が行われたのはミズーリ州フルトン。イーイーデンはチャーチルの後継首相。1951年総選挙で下野したのはアトリー(労働党)。エ-チャーチルが受賞したのは「文学賞」。	
〔Ⅲ〕	中国史における貨幣	設問1正解はウ「開元通宝」。イ「半両銭」とエ「五銖銭」は易しいがア「至正宝鈔」は細かい。元最後の皇帝となった順帝(位1333~70)が1350(至正10)年に発行した交鈔。ただ「鈔」の文字から元明時代を連想はできる。設問2：正解はイ。年代配列問題だが落ち着いてみればそれほど面倒ではない。エの「アルダシール1世」はササン朝建国者。アは3世紀のシャープール1世の事績。イのホスロー1世は6世紀の人。ウ-ニハーヴァンドの戦い(642)はササン朝が事実上滅亡した戦い。設問3：正解は「不換」。兌換の対義語である。設問4：正解はア。エ「ドル・ショック(1971)」→ウ「変動相場制」(1973)→ア「プラザ合意」(1985)→イ「アジア通貨危機」(1997)の順。設問5：正解はイ。アルタン=ハンの北京包圍(庚戌の変-1550年)は16世紀。設問6：正解はウ。鄭成功はゼーランディアに拠るオランダ勢力を駆逐した。設問7：正解は「一条鞭法」。	一部 やや難
〔Ⅳ〕	インド洋貿易の展開	設問1：正解は『エリュトウラー海案内記』。設問2：正解はエ。ヴィジャヤナガル王国はヒンドゥー王国。設問3：正解は「ペルシア湾」。設問4：正解はウ。カブラルが横断(してしまった)したのは大西洋。設問5：正解は「マムルーク朝」。設問6：正解はア。イ-スエズ運河の株式の売却先は英政府(首相はディズレーリ)。ウは明白な誤り。エ-共同介入したのはフランス。設問7：正解はエ。ア-1475年に服属させたのはクリム=ハン国。イ-プレヴェザ海戦はスレイマン1世。ウ-レパント海戦はオスマン帝国が敗北。	標準
〔Ⅴ〕	近現代の西洋絵画	最後尾の絵画史はすっかり定着した観がある。今年は2022年「フェミニズムと絵画」、2021年「19世紀フランスの絵画と社会」と隣接するテーマ設定。設問1：正解はア。「1808年5月3日」は教科書レベルの絵画。設問2：正解は「ゴヤ」。設問3：正解はウ「プロイセン=フランス戦争(1870.7~71.5)。問題文に「1871年から1872年にかけて」とあるので易しい。設問4：正解はア。ア-「象徴派」は絵画では見かけない概念で紛らわしい(19世紀末の象徴主義は文学の世界では重要)が、イ-印象派のモネやルノワールと画風が真逆。ウ-「ロココ」は18世紀フランス、とくにルイ15世の宮廷が中心、エ-「ロマン派」は19世紀初めなので除外。設問5：正解はダダイズム。問題文が大袈裟で構えさせるが、要は「のちにシュルレアリズム運動へと展開」で即答できる。ちなみにイはドラクロワ「民衆を率いる自由の女神」=七月革命、ウは同じくドラクロワ「キオス島の虐殺」=ギリシア独立戦争。エはダヴィド「ホラティウス兄弟の誓い」。ダヴィドはナポレオンの宮廷画家として数々の作品を残しているが「ホラティウス兄弟の誓い」は高校・大学受験レベルでは登場しない。ただこのような未知の選択肢にこだわらなくても解答には困らない。	一部難

[総合コメント]

古代から始まって、中世、近代、そして現代へと出題するパターンはそのまま踏襲された。地図問題と短い論述問題は復活しなかった。2020年に引用が目立った歴史学研究会編『世界史史料』と2021年・2022年使われた『西洋史料集成』など史料集から引用した設問は消滅した。最後尾の定番となった感のある絵画問題は今後も出題が続くと思ったほうがいい。教科書だけでは不足なので図説類を併用してこまめに参照するといい。とくに18・19世紀の欧米美術は流れにそって丹念に学習しておきたい。全体として記述式の問題は易しい。ただ、昨年の南越の建国者趙佗のように用語集の説明文レベルの人名も出題されているので油断は禁物である。文化構想学部と傾向が類似する文学部も含めて過去問は徹底的に研究しておくべきである。